

## 九州伝産の旅

### vol.3

2022 年

## 八女福島仏壇

### 漆工房 岩弥

#### <工房紹介>

代表の近松敏夫さんが漆職人の祖父「岩吉」と父「弥吉」の名前を一字ずつ使った屋号をかまえ、2016年に開業。伝統工芸品である八女福島仏壇、漆塗箔押部門をはじめ、寺院仏具内陣漆塗修復工事や、無形文化遺産となった唐津くんちで巡行される巨大な曳山の総塗替えや修復なども手がけた経験がある。

近松敏夫さんは1997年に伝統工芸士資格を取得。

# やめ 八女福島仏壇 漆工房 岩弥

## 伝統的な仏壇技術をアクセサリ製作に注ぎ込む

和の店構えがとても素敵な漆工房 岩弥さん。伝統的工芸品である八女福島仏壇の漆塗職人として活躍し、仏壇以外にも漆を使ったアクセサリの製作など新たな取組にチャレンジされている、代表の近松敏夫さんと、アクセサリの販売や広報等を担当している奥様の佳子さんにお話を伺いました。



近松さんご夫妻



漆の技術を使ったアクセサリ



工房の様子

### ■ 八女福島仏壇の歴史・特徴

江戸時代後期、指物大工の遠渡三作がある夜、荘厳華麗な仏閣の夢を見て思い立ち、同業者だった井上利久平、平井三作の両名に協力を求めて仏壇製造を志したのがはじまりといわれています。1850年頃に製造技術が確立され、九州での仏壇製造の源流ともなっています。木地造り、宮殿造り、彫刻加工、金具加工、塗装加工、蒔絵加工と総組立てに分けられ、全工程数は80工程余りにのぼり、ほとんど手加工による伝統技法が継承されています。

※八女福島仏壇仏具協同組合パンフレットより引用・編集。

## Q.「岩弥」の仏壇の特徴を教えてください

(敏夫さん)「岩弥」の仏壇は漆の塗り方や色合いのバリエーションに特徴があると思います。また、伝統的な仏壇はもちろんのこと、近年はいわゆる「お仏壇」らしくないシンプルなデザインや、ビンテージ風のユニークな仏壇も製作しています。仏壇製作については、材料や形状、漆の色やパーツ、蒔絵の図柄や場所などお客様のご要望を細かくお聞きした上で、オーダーメイドでの製作も承っています。



漆の新たな表現を使った仏壇

## Q.お仏壇の修復の依頼も多いのですか？

(敏夫さん) 多いですね。仏壇は、解体して一つ一つのパーツを丁寧に補修・クリーニングを行い、再度組立てれば見違えるように生まれ変わります。また、仏壇以外にもタンス等、漆塗の物の補修・塗り直し、修復もお引き受けしています。

(佳子さん) 例えば、高級寿司店の漆の器や、ユニークな事例としては空気清浄機の漆塗を依頼されたこともあります。漆塗が八女でできることをご存じない方が九州でも意外と多いのはもったいないなと思います。



修復で新品同様生まれ変わった仏壇

## Q. 漆塗りはどのような工程でできるのですか？

(敏夫さん) 漆塗の工程としては、木地に布や和紙を張った後に「下地」、「塗り」の工程へと移りますが、漆塗りの出来ばえは「下地」の工程に影響されます。「下地」の「研ぎ」の工程ではミリ単位の細かいスジさえ見逃さないように炭で丁寧に研いでいきます。また、「塗り」の工程においても、漆を塗る前の下地塗が重要で、木目が平になるよう下地段階から何度も塗り重ねます。様々な段階を経てようやく漆塗作業に入りますが、漆塗りの工程においても作業中に少しでもゴミが入ると表面に凹凸ができてしまうので、とても気を遣う作業です。



漆塗りの工程を示したサンプル



漆塗りの様子

## Q.漆を使ってアクセサリーを製作しようと考えたきっかけは？

(敏夫さん) 工場の洗面所の水栓レバーにボール状の漆玉をつけてみたのをきっかけに、「漆でアクセサリーを作ってみたらどうだろう?」と思い立ちました。現在はネックレス、リング、ピアス、ブローチ、かんざし、バングルなどバリエーション豊かなアクセサリーの製作・販売を行っています。

(佳子さん) お客様の声を受けて、次第にバリエーションが増えていきました。工房でも販売している他、イベントや百貨店への出展等も行っています。店舗にアクセサリーを置くことで、構えずに入りやすいお店になったと思います。また、アクセサリーを見に来られたお客様が話の流れで仏壇の修復を依頼されるようなこともあり、思わぬ相乗効果がありました。

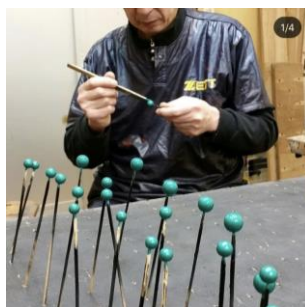
(敏夫さん) アクセサリーを製作することで、漆を使った様々な技法や表現が生まれ、逆にそれらの技法が仏壇に活かされることも増えてきました。



## Q.漆の魅力は？

(佳子さん) 天然素材であり、抗菌や耐久性、耐水性、防虫等の様々な効果があります。実際に身につけていただくと、しっとり・まったりした肌触りを感じてもらえると思います。また、漆は経年変化により、色が微妙に変化していくのが魅力で、購入後に「漆を育てる」ことを楽しめるお客様もいらっしゃいます。

(敏夫さん) 製作過程においても、漆の色は温度湿度などに影響されやすく、同じ色は二度と出せないため、全て一点ものである点も魅力です。塗り直しができる点も長く使っていただけるポイントですね。



## profile

### 工房名

漆工房 岩弥 近松仏壇店

### 場所

福岡県八女市高塚 253-1

### 電話

0943-22-5800

### 定休日

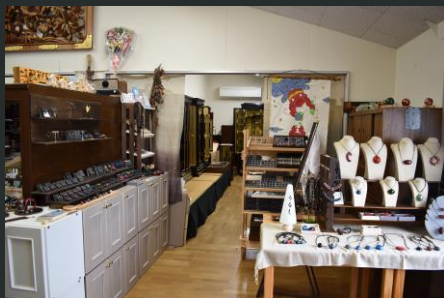
不定休

### 営業時間

10:00~18:00

### Web サイト

<https://www.urushikoubou-iwaya.jp/>



## Q. 漆工房岩弥として大切にしていることを教えてください。

(敏夫さん) 八女福島仏壇は大量生産ではないため、お客様のニーズにひとつひとつ応えていくことを一番大切にしています。

(佳子さん) お客様のご要望と「岩弥」のこれまでの経験や職人技が合わさり、オリジナルの商品が完成すると思っています。

## Q. 今後の展開は？

(敏夫さん) 今後は、対面販売だけでなくオンライン販売にも力をいれていきたいと思っています。開業した際に、店名を仏壇店とせず、「漆工房」としたことで、お客様が入りやすいお店になり、また仏壇以外への広がりも出てきたように思います。今後も一人一人のお客様の声に丁寧に対応していくことを積み重ねていきたいと思います。

## Q. 八女福島仏壇の魅力、八女魅力を教えてください。

(敏夫さん) 八女福島仏壇はオーダーメイドでお客様の好みに合わせていかようにも製作できる点が魅力の一つだと思います。また、売りっぱなしではなく、購入後もメンテナンスなど、お客様と長いお付き合いができる点も特徴です。

八女は「工芸品」のまちです。国の伝統的工芸品だけでも八女福島仏壇と八女提灯の2つがあり、その他にも手すき和紙や竹細工等もあります。これほど工芸品が一つの産地に集まっている場所も珍しいと思います。八女といえば「お茶」のイメージが強いですが、それ以外にも農作物等を含め、魅力がたくさんあります。ぜひ皆さんに八女に遊びに来ていただきたいです。

「そばにいる私が一番、漆にハマってしまいましたから」とおっしゃっていた奥様。漆の話になると、ご夫妻ともに本当に生き生きと、熱く語られている様子がとても印象的でした。アクセサリー製作による「遊び心」から漆の新たな表現が生まれ、また仏壇技術に還元されている点は、他の工芸品でも参考になりそうです。